



基礎石の搬入

稲嶺沖縄県知事や岸本名護市長の祝辞では、農業の振興、営農対策との連携により赤土流出を防止し地域の環境保全を図るという本事業の目的やダム建設にかかる用地の提供関係者へのお礼などが述べられました。

その後、江上羽地大川農業水利事業所長により本事業の必要性、昭和五十二年調査着手、昭和六十年の事業着手、平成三年度からの真喜屋ダムの付替道路工事着手といった真喜屋ダム建設工事の経過や、平成十八年度試験湛水、平成十九年三月の事業完了など予定の説明がありました。



沖縄総合事務局長式辞

当地域における農業や農業振興に必要な基盤整備の重要性、基盤整備の一環として安定的な農業用水の確保供給を行う本事業への期待が述べられました。

続いて、内閣府沖縄振興局、農林水産省農村振興局からの祝電の披露や施工業者による工事安全宣言が行われた後、定礎の儀へと式典が進みました。

定礎の儀では地元真喜屋・稲嶺区の獅子舞などの先導により事業所職員と施工業者が約百kgに及ぶ黒御影石製の礎石を搬入した後、定礎石を据える鎮定の儀、定礎石を安定させる斎槌の儀、定礎石を埋める埋納の儀、締固めが名護市長、今帰仁村長ほか関係者により、厳かに執り行われました。

その後、重機による盛立が開始され、出席者一同による万歳三唱が式典会場に響き渡ると同時に、くす玉が割られ、真喜屋ダムの定礎を祝いました。

平成十八年度の事業完了まであと約二年半です。残された時間は少なくなってきましたが予定通りの事業完了を目指し、沖縄総合事務局羽地大川農業水利事業所では引き続き、事業実施に邁進してまいります。



国営羽地大川地区 真喜屋ダム定礎式挙行 ～ダムの永久堅固と安泰を祈願～



真喜屋ダム完成予想

「羽地大川地区」では、名護市、今帰仁村千三百二十六haの農地に対するかんがい施設を整備することにより生産性の向上や近代化を図ることや、関係行政機関と連携し環境保全型農業の普及・定着により地域の環境保全を図ることを目的としています。

真喜屋ダムは、今年度完成予定の特定多目的ダム「羽地ダム」とともに「羽地大川地区」の水源として建設されています。真喜屋ダムの有効貯水量は百二十六万m³でその水は沖縄本島内の受益地のみならず、海を隔てて屋我地島、古宇利島へと供給されます。

定礎式当日は、前日までの風雨や台風二十二号の発生により、天候が危惧されていましたが、幸いにも薄日の差す中、沖縄総合事務局をはじめ沖縄県、受益市村である名護市、今帰仁村などの関係者約百名を集め、無事に式典を開催しました。

この日、定礎式に先立ち、工事関係者や地元関係者などが出席した神事も厳粛裡に執り行われました。

定礎式は、十時三十分から始まり、式辞として竹林沖縄総合事務局長から干ばつ被害の軽減、花き、野菜、果樹等の導入による高付加価値型

国

営環境保全型かんがい排水事業「羽地大川地区」において建設中の真喜屋ダム（中

心遮水ゾーン型ロックフィルダム・堤高三十三・六m、堤長百七十一・一m）の礎石を据え建造物の永久堅固と安泰を祈願する定礎式が十月五日（火）に執り行われました。